

山口市における民家を活用した地域型つどいの広場の利用特性

－既存建築を活用した子育て支援拠点整備に関する研究 その3－

子育て支援  
利用形態

親子  
施設評価

空き家

正会員 ○伊藤 優里\*  
正会員 山本 幸子\*\*  
準会員 吉岡 絢香\*\*\*  
正会員 中園 真人\*\*\*\*

1. 序論

少子化対策の一環として、未就園児をもつ家庭を支援する「地域子育て支援事業」(2007年)が開始されている。本研究は、山口市における地域の人材と既存建築を活用した、子育て支援拠点の整備運営方式に着目し、施設整備プロセスと運営の特徴を明らかにするとともに、建築形態と改修内容・空間構成を整理した上で、施設の使われ方調査を通して空間機能の評価を行い、既存建築を活用した子育て支援拠点を展開していく上での整備指針を得ることを目的とする。前報<sup>1, 2)</sup>では、山口市独自事業の創設経緯と事業展開及び施設の整備プロセスについて整理するとともに、施設改修の検討プロセス及び改修内容を明らかにした。よって本報では、山口市における民家を活用した子育て支援施設を対象に、利用者属性・利用のきっかけ・利用圏を把握し、利用者特性を明らかにするとともに、施設の環境評価をもとに、施設整備内容の課題を抽出することを目的とする。

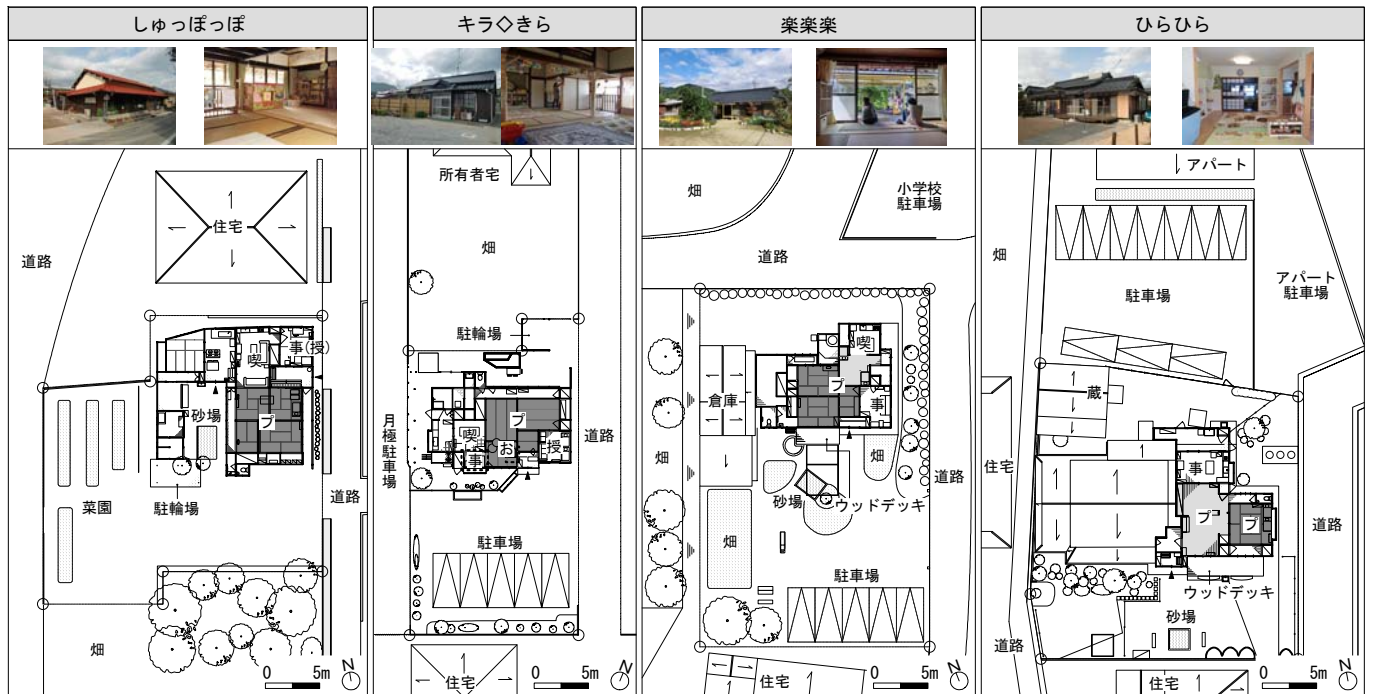
2. 調査概要

2-1 調査施設の概要

2010年度末時点の山口市子育て支援施設総数は22で、その施設形態の内訳は、保育所併設15、公共施設併設1、旧保育所活用1、空き店舗活用1、空き家活用4である。本報では空き家活用タイプの4例(事例3, 4, 5, 7)を調査対象とする。施設の配置図兼平面図を図1に示す。

各施設の空間構成の特徴について以下に整理する。事例3「しゅっぽっぽ」は、田の字型の和室4間がプレイルーム、台所が喫茶室、和室が事務室兼授乳室に充てられている。トイレと洗面所はあるが、おむつ替えスペースは設けられていない。土間には既存の釜戸があり、イベント時に活用されている。中庭には砂場と駐輪場が設置され、西側の菜園が整備されている。駐車場は敷地外の約25m(スタッフ用)と35m(利用者用)の場所に確保されており、約15台の駐車が可能である。

事例4「キラ◇きら」は、南面和室4間がプレイルーム



注) しゅっぽっぽ: 施設から約25mと約35mの場所に駐車場あり(計15台分)、楽々楽: 施設から約150mの場所に第2駐車場あり(6台分)  
凡例) プ: プレイルーム (■: フローリング, ■: 畳)、授: 授乳室、お: おむつ交換室、事: 事務室、喫: 喫茶室 ※: ...は空間の一部に設置

図1 配置図兼平面図

Use Characteristics of the Childcare Support Facility Converted Traditional Wooden Houses in Yamaguchi city  
Study on the Childcare Support Facility converted the Existent Architecture(Part 3)

ITO Yuri, YAMAMOTO Sachiko, YOSHIOKA Ayaka, NAKAZONO Mahito

表1 アンケート調査概要

調査の実施日と対象		アンケート回収率		
利用者	スタッフ	施設名	利用者	スタッフ
各ひろばの開館日のうち4日間～6日間、施設の使われ方調査と並行して実施	スタッフにアンケート用紙を渡し、都合の良い日に記入してもらい、後日回収	しゅっぽっぽ(S)	14枚	40枚
		キラ◇きら(K)	15枚	10枚
		楽楽楽(R)	12枚	13枚
		ひらひら(H)	16枚	12枚

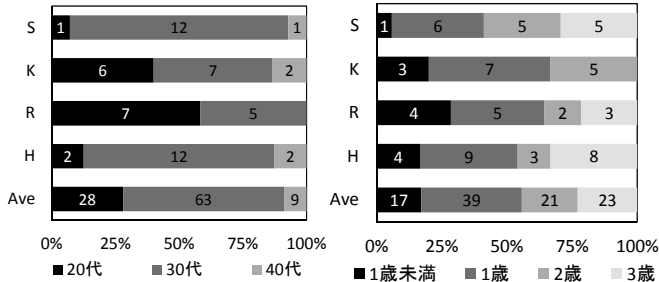


図2 利用者の年齢

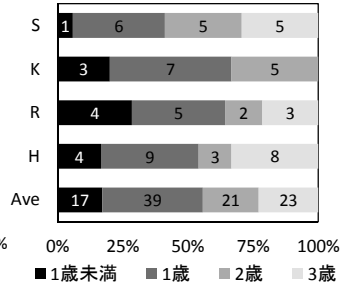


図3 子どもの年齢

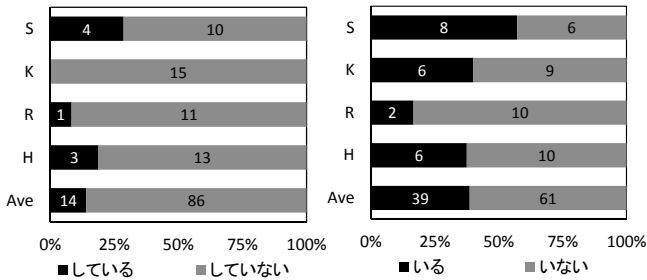


図4 年配の同居家族

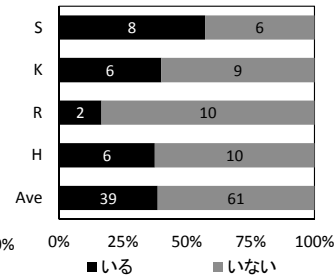


図5 子育てに協力可能な距離に住む親族

に充てられ、その一角におむつ交換スペースが設置されている。ダイニングルームに喫茶室、喫茶室南側の約2畳に事務スペースが設けられており、事務空間は個室ではなく、受付も兼用されている。また、4事例の中で唯一授乳室が設けられており、トイレの奥に洗面所を有す。庭は整備されておらず、敷地南側に駐車場5台分が確保されている。

事例5「楽楽楽」は、畳3間と板間1間がプレイルームに充てられ、台所に喫茶室が設けられている。事務室が独立した空間となっており、重要な書類等はここ中の書類棚に収納されている。トイレと新設の洗面所を有しているが、授乳・おむつ交換スペースは設けられていない。敷地南側は屋内のデッキに面して砂場が整備され、花壇や畑も作られており、子どもの遊び場として活用されている。駐車場は敷地内に5台分と、施設から約150mの場所に第2駐車場が完備されている。

事例7「ひらひら」は、住宅の半分程度が施設として利用されており、板間と畳空間がプレイルームに充てられ、事務室は台所が利用されている。トイレはあるが洗面所がなく、授乳・おむつ交換スペースも設けられていない。

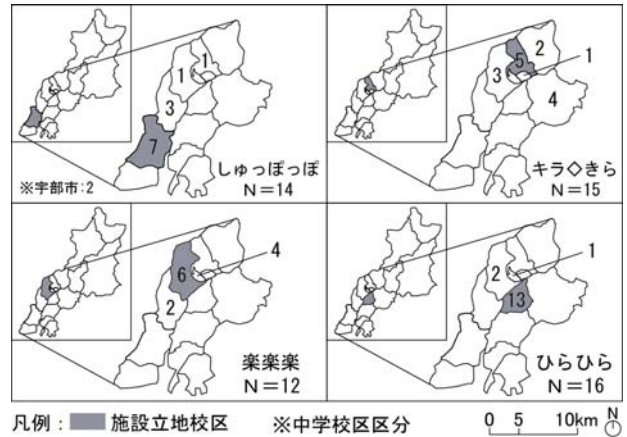


図6 施設利用圏

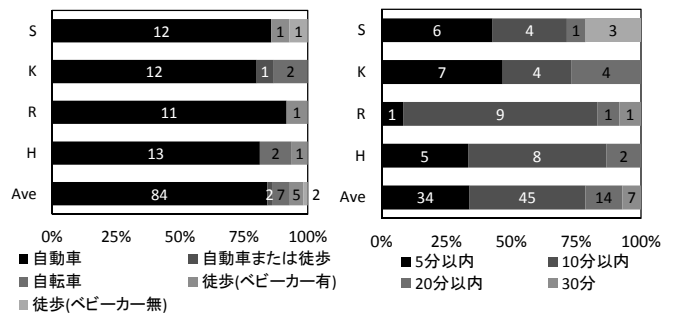


図7 交通手段

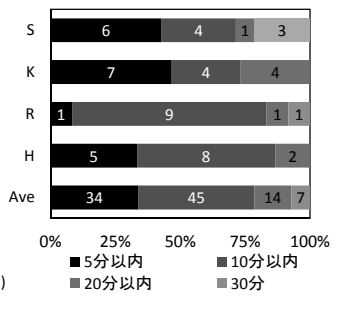


図8 所要時間

屋外にはデッキに面して砂場と庭が整備され、敷地北側に駐車場が10台分設けられている。

## 2-2 調査方法

施設の利用者及びスタッフに対して、アンケート調査を実施した。調査概要を表1に示すが、利用者に対する調査項目は、施設の利用頻度や利用のきっかけ、施設の利用目的等である。スタッフに対する調査項目は、勤務頻度や子育てに関する資格の有無、勤務年数等である。また、利用者とスタッフに共通した項目としては、年齢、居住地区、交通手段、施設の空間評価等がある。なお、調査期間は2011年9月～2011年11月で、回収数は利用者57枚、スタッフ75枚である。

## 3. 利用形態の特徴

### 3-1 利用者の属性

利用者の属性について図2から図5に示す。まずアンケート回答者は全員女性で、年齢は、20代、30代、40代の3つに分かれ、中でも30代が全体の6割を占める。また、その子供の年齢はどの施設においても1歳が最も多く、全体では2歳以下の乳幼児数が約8割を占め、子育て初期の母親に多く利用されていることがわかる。そして、現在利用者より年配の親族と同居しているかとの問いでは、約9割が同居していないと答え、平日に子どもの面倒を見てくれる家族も半数以上がいないと回答した。

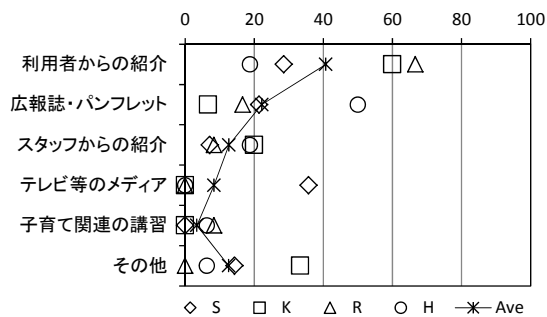


図9 利用のきっかけ

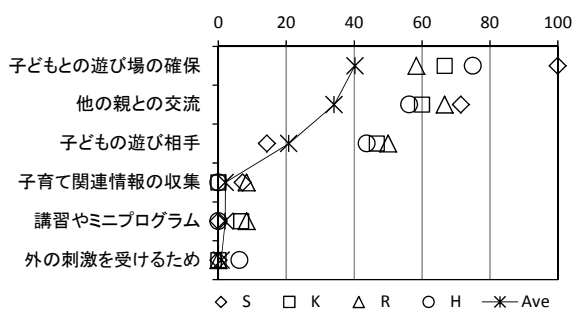


図10 利用目的 (2つまで回答)

### 3-2 利用者の居住地と移動時間

施設の利用圏を図6に示す。利用者の居住地は施設が立地する中学校区が中心で、それに隣接する校区からの利用も見られる。「しゅっぽぼ」のみ市街や立地校区から離れた遠方からの利用も見られ、これは、ホームページや広報誌等での積極的な情報発信が影響していると考えられる。

また、施設への交通手段では車が8割以上を占めており、所要時間は10分以内が6割となっている(図7,8)。中学校区内からの利用においても徒歩は少なく、車での来所が一般的である。

### 3-3 利用のきっかけ・目的

施設を利用するに至った経緯を図9に示す。「キラ◇きら」と「楽楽楽」では、利用者からの紹介が6割以上を占め、母親同士の口コミを通じて利用が広がっていると考えられる。「ひらひら」では広報誌やパンフレットでの宣伝が最も多くなっている。そして、「しゅっぽぼ」では、テレビ等のメディアでの宣伝が約4割を占め、前述した広範囲からの利用者の獲得につながっていると考えられる。

次に施設の利用目的を図10に示すが、「子どもの遊び場・遊び相手の確保」と、「他の親との交流」が主な目的となっており、これには、現在の子育て家庭が直面している核家族化や少子化、そして遊び場の不足等の問題が影響していると考えられる。一方、子育て関連の情報収集やミニプログラム等は1割以下と少ない結果となっている。

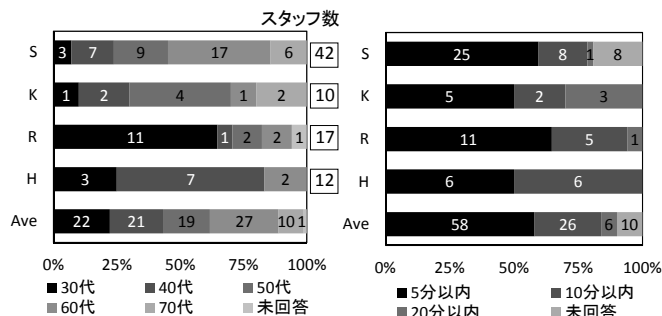


図11 スタッフの年齢

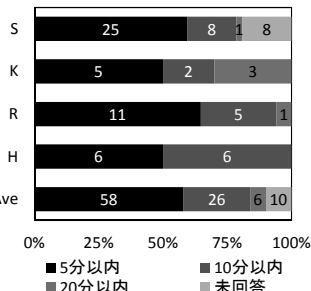


図12 所要時間

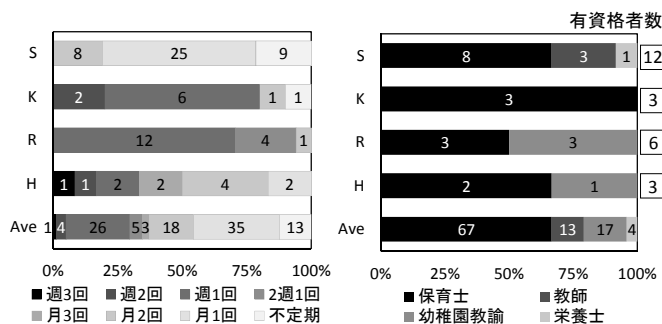


図13 勤務頻度

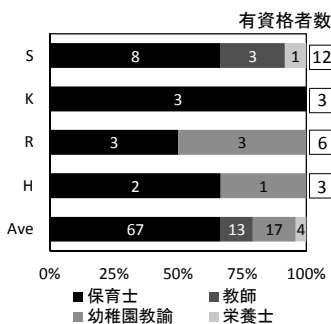


図14 子育てに関わる資格

## 4. スタッフの属性

スタッフの属性に関して図11から図14に示す。スタッフの年齢は、「しゅっぽぼ」では50~70代が7割以上を占めるのに対し、「楽楽楽」では30代の比較的若いスタッフが6割以上を占めている。これは、施設によってスタッフの配置の仕方が異なるためである。「楽楽楽」では、「ママスタッフ」と呼ばれる乳幼児子育て中のスタッフが多く配置されており、施設に子どもと一緒に出勤することによって、施設の利用者と同じ状況下でアドバイスを行うことが可能である。また所要時間に関しては、スタッフの大半が施設のある校区内に住んでいるため、ほとんどが施設まで10分以内となっている。

次に勤務頻度は、「キラ◇きら」と「楽楽楽」においては週に1回が6割以上を占めているが、「しゅっぽぼ」ではスタッフの人数が多いため半数以上が月に1回となっている。そして「ひらひら」では、施設の運営を円滑に行うために週に3日終日出勤する常勤スタッフを設けている。また、勤務形態にも違いがみられ、「しゅっぽぼ」・「キラ◇きら」・「ひらひら」では、1日に午前・午後・終日勤務のスタッフがそれぞれ1名ずつ配置されており、「楽楽楽」では、午前2名、午後2名の配置となっている。

子育てに関する資格については、保育士が全体の約7割を占め、各施設に2名以上は保育士の資格を有するスタッフが確保されている。また、保育士の他に、教師や幼稚園教諭、栄養士等の資格を持ったスタッフもみられ、子育ての場として専門的な知識を有したスタッフが配置されている。

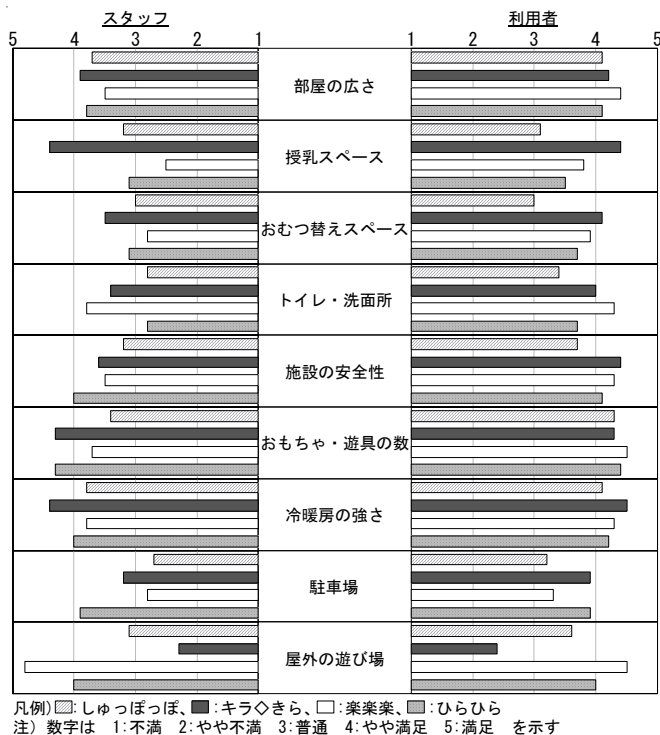


図 15 施設環境評価

### 5. 施設環境評価

スタッフと利用者それぞれの施設の環境評価を図 15 に示す。まず、部屋の広さについては 4 施設とも「普通」以上の評価で、特に利用者からの評価が高い。

授乳スペースは、個室を設置している「キラ◇キラ」の満足度が最も高いが、スペースがない「楽楽楽」・「ひらひら」においても「普通」以上の結果となっている。これは施設を利用している大半が女性のため、授乳室が独立していなくてもよいと考えられていると推察される。おむつ交換スペースは、「キラ◇キラ」のみ場所が指定されているため好評価となっている。トイレ・洗面所は、便器と手洗い器を新設した「楽楽楽」において最も高い。

「施設の安全性」は、全体的に評価が高く、利用者・スタッフ共に子育て支援施設としての安全性は確保されていると感じている。特に乳幼児の転落防止のために柵を多く設置している「キラ◇キラ」において高い評価が得られている。「おもちゃ・遊具の数」と「冷暖房」についても高い評価が得られている。

駐車場は、4 以上の評価を得た施設はないが、敷地内に駐車場のある「キラ◇キラ」と「ひらひら」は、他の 2 施設と比較すると高評価である。「しゅっぽぼぼ」と「楽楽楽」では、敷地外に駐車場がある（楽楽楽は第 2 駐車場）ため、車を駐車してから施設まで子どもを連れて歩

くのが大変であるという理由が考えられる。

屋外の遊び場は、花壇や畑などの豊かな庭の環境の整っている「楽楽楽」において最も評価が高く、「キラ◇キラ」では、屋外に子どもの遊ぶ空間が整備されていないため、スタッフ・利用者とも低評価となっており、屋外空間の整備が望まれている。

### 6. 結論

本論では山口市における民家を活用した子育て支援施設を対象に、利用者特性と施設環境評価の分析を行った。得られた知見は以下のとおりである。

- 1) 1～2 歳の乳幼児を連れての利用が全体の約 8 割を占め、子育て初期の母親が中心である。利用圏は施設立地校区とその隣接校区が中心で、大半が車で 10 分の移動距離内に居住している。
- 2) 利用のきっかけは、利用者同士の口コミ・ホームページ等のメディア・広報誌等施設により異なり、メディアでの情報収集の場合は、遠方からの来所者も見られた。利用の目的は「子どもの遊び場・遊び相手の確保」と、「他の親との交流」が主である。
- 3) スタッフの配置は施設により差異が見られ、「ママスタッフ」の配置の有無によりスタッフの年齢層が異なっている。また、勤務頻度はスタッフの人数によって異なり、スタッフが 40 人以上確保されている施設（しゅっぽぼぼ）では、月に 1 回の出勤が主である。一方、開館日に終日勤務する常勤スタッフを配置し、施設の運営を円滑に行えるように工夫されている施設（ひらひら）も見られた。
- 4) 施設の環境評価では、部屋の広さや設備・安全性・おもちゃの数に関し、利用者からは一定の評価が得られている。一方、敷地外に駐車場を有す施設や、屋外空間が未整備の施設についてはその点に関し評価が低く、敷地内に駐車場と庭を整備することが望まれる。

### 謝辞

アンケート調査にご協力いただきました、各ひろばのスタッフ及び利用者の方々に深く謝意を表します。

### 参考文献

- 1) 伊藤優里・山本幸子・中園真人：「山口市地域型つどいの広場設置助成事業」の創設経緯と施設整備プロセス—既存建築を活用した子育て支援拠点整備に関する研究 その 1—, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第 34 巻, pp. 529-532, 2010. 3
- 2) 伊藤優里・山本幸子・中園真人：地域型つどいの広場の空間構成の特徴と改修内容—既存建築を活用した子育て支援拠点整備に関する研究 その 2—, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第 34 巻, pp. 533-536, 2010. 3

\* 山口大学大学院理工学研究科 博士前期課程  
 \*\* 山口大学大学院理工学研究科 助教・博士（工学）  
 \*\*\* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生  
 \*\*\*\* 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

\* Graduate Student, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ  
 \*\* Assistants Prof., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr. Eng.  
 \*\*\* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.  
 \*\*\*\* Prof., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr. Eng.